

# 脳卒中発症時の 判断と対応について

# 目次

- 脳卒中発症時の症状と判断について…………… P1
- 脳卒中を判断するポイント「FAST」…………… P2
- 脳卒中の症状、フロー図…………… P3
- 脳卒中発症を疑う場面(例)は、こんな時… P4
- 救急隊に伝えるポイント…………… P5
- 読み聞かせ資料…………… P6～7
- グループワーク 記入用紙…………… P8

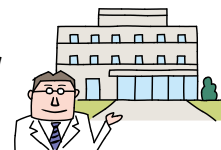
# 脳卒中発症時の症状と判断について

## 1 脳卒中を判断するポイント「FAST」

脳卒中は症状の出方に差があり、気付きにくいものもあります。

FASTとは、脳卒中を判断する3つのポイント「Face(顔)」「Arm(腕)」「Speech(言葉)」と、一刻も早い救急要請対応を表す「Time(時間)」の頭文字をまとめたものです。

➡ FASTの詳細は、裏面へ!



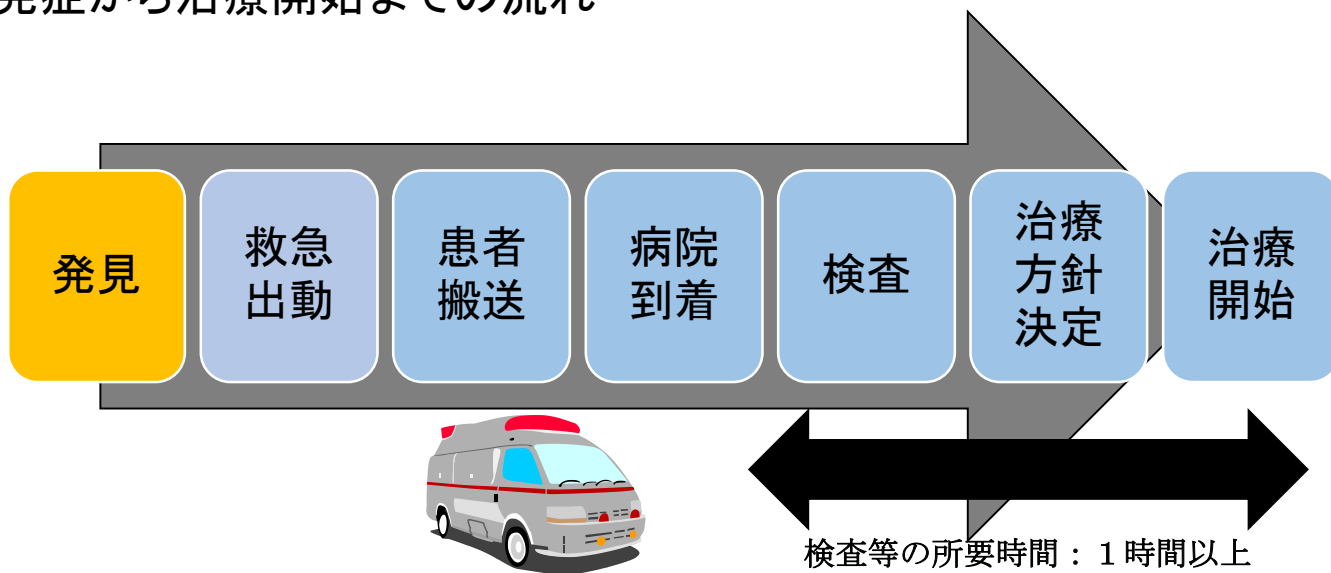
## 2 症状の出方は必ずしも同じではない

大梗塞や大きな出血 → バットで頭を殴られたような頭痛や意識消失など、症状が強くなる。

小梗塞や小さな出血 → 症状の出方が小さく、発症に気付きにくい場合もある。

**!** 症状が軽くても、後に重篤な状態をきたし、障害が残る可能性がある。

## 3 発症から治療開始までの流れ



脳卒中急性期専門病院への搬送後、検査や治療方針の検討がされた後に治療開始となります。この検査や治療方針の検討にはおよそ1時間程度の時間がかかります。

**夜だから、翌朝まで様子を見よう。。では、遅い。**

**FASTをチェック!**

一刻も早い救急要請が肝心です。

## 脳卒中を判断するポイント「FAST」

- 次の3つの症状のうち、一つでも当てはまる時は、脳卒中の疑いがあります。迷わず、すぐに救急要請しましょう。
- 「顔」「腕」「言葉」をチェックしましょう。
- 症状が短時間で消える場合もありますが、様子を見ないで、すぐに救急要請してください。

# F

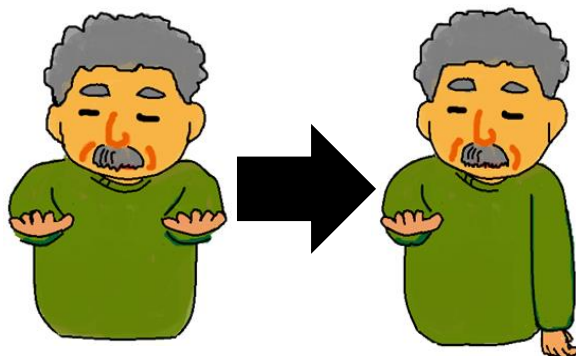
Face : かお  
フェイス



顔の片方だけが垂れ下がっているように見える。  
笑顔を作っても片方の口角が挙がらない。

# A

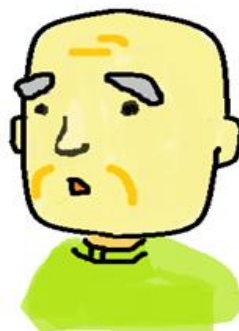
Arm : うで  
アーム



両腕を体の前に出して目を閉じる。  
片方の腕が徐々に下がる、あるいは片方だけ挙がらない。

# S

Speech : 話  
スピーチ



会話が上手く成立しない。  
ろれつが回らない。

# T

Time : 時間  
タイム

一刻も早く、

# 救急車

で専門病院へ!

発症した時刻を救急隊に伝えてください!

急いで!!

血管の詰まり(脳梗塞)は、  
発症早期なら取り除くことが  
でき、後遺症の程度に大きく  
影響します。

**脳卒中では以下のような症状が突然起こります。**

- 片方の手足・顔半分の麻痺・しびれが起こる  
(手足のみ、顔のみの場合もあります)
- ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない
- 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける
- 経験したことのない激しい頭痛がする

## 脳卒中

脳の血管が詰まるタイプ

脳の血管が破れるタイプ



脳梗塞

動脈硬化や、他の部位から血流に乗って流れてきたもの（血栓）が脳の血管につまり、その先の脳組織への酸素や栄養の供給が滞り細胞が壊死することによって起こります。

一過性脳虚血発作

脳の血流が一次的に悪くなり、発症時はめまいやふらつき、麻痺、感覚障害、片側にだけカーテンがかかったように視野が狭くなる症状などが出ますが、数分～24時間以内に症状が消失します。本格的な脳梗塞の前兆といわれており、症状が消えても、一刻も早い専門医療機関の受診が求められます。

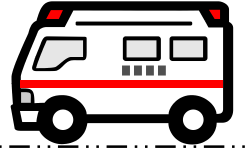
脳内出血

脳の血管が切れて、脳内で出血がおこすことで、脳細胞を圧迫し傷つけます。

くも膜下出血

脳の周りを覆っているくも膜の下で出血した場合におこります。くも膜の下には軟膜と脳があり、出血により脳が圧迫を受けてダメージを負います。多くの場合、発症時に頭をバットで殴られたような痛みを感じます。

# 脳卒中発症を疑う場面(例)は、こんな時



- 顔を良く見てみると、左半分の顔の表情に比べて、右半分の表情が乏しい。
- 激しい頭痛を訴えている。
- いつもははっきり挨拶をしてくれる人が、今日は呂律が回っていない。
- めまいがすると言っている。
- 今日は、やけにふらついている。
- 片目が見えづらいつ言っている。
- いつもは上手に食べられているのに、今日は上手く箸が使えてない。食べこぼしも多い。
- いつもきれいに書けている名前が書けない。書こうとしているが、同じ字ばかりを書き続ける。字の乱れも多い。

# 救急隊に伝えるポイント

## 症状

症状が出始めた時刻  
どのような症状が出たか  
「顔の片側が歪む、  
片手が拳がらない、  
呂律が回らない」など

## 薬

お薬手帳または、服薬内  
容を記載したものの用意  
を。

## 持病

どんな持病があるか？  
元々不自由なところが  
あれば、どこか？

## 脳卒中の急性期治療は、開始が早ければ早いほど有利です。

過去、脳卒中は、決め手となる治療方法がない時代が続きましたが、現在は発症直後の薬物療法や手術などの治療法が確立されています。しかし、急性期医療機関に迅速に搬送されず、急性期治療が遅れると、生命をおとしたり、重い後遺症をおってしまいうこともあります。治療開始が早期であるほど、治療方法の選択肢が広がります。例えば、脳梗塞の治療方法の一つに、**r-tPA**という血栓溶解療法に使用される薬があります。これは発症から**4.5時間**以内の投与が使用条件の一つとなっています。（**H28.6月**現在）急性期医療機関での検査等に約**1時間**かかることから、**3.5時間**以内に急性期医療機関に到着していません。使用できなくなってしまう。

**r-tPA**に限らず、脳卒中の急性期治療は、発症から時間がどれだけ経過したかによって選択肢が限られてきます。一刻も早い救急要請と、発症時刻や元々の身体状況、服薬状況などの適切な情報提供が、急性期治療には欠かせません。